

令和の願い、七夕に やなぎ会の18人、豪華に飾り付け



手芸の会「やなぎ会」のみなさんによる七夕の飾り付けが、7月2日にありました。60代から80代までの18人が参加。1人1作品を作り、笹に飾り付けました。

絵画クラブ「はつみ会」の橋本マリ子さんの自宅にある笹を、毎年提供してもらっています。ささえーるの天井まで届く笹を玄関に据え付け、それにみんなで飾り付けしました。

花束の包装紙を使った網の作品、折り紙の金魚、貝つなぎ、輪

つなぎ、鶴、舟、やっこ、スーパーの広告チラシを使った作品など、笹の緑に色とりどりの飾りがよく栄えています。

やなぎ会代表の小林栄子さんは「去年に比べて参加者が多く、いろいろな種類があって豪華になりました」。

短冊には、「天の川」や「今のままを維持」、「足腰健康で、末永く、ささえーる薬王寺に通えて、皆様といつも楽しめますように」、「災害の無い平和な令和に

なりますよう願います」といった願い事が書かれています。

最後にみなさんで記念写真。参加者の一人は、床に落ちてしまった飾りを、大事そうに拾い上げ持ち帰っていました。

現在でも豪華な七夕飾り。七夕本番の前日6日にある「ごきげんキッチン」でも、さらにみんなで飾り付けをする予定になっています。

(記事・写真=伊藤ゆり子さん)